

1. 研究推進校・研究協力校の概要

〈研究推進校〉

H28.5.1 現在

学校名	四万十市立中筋小学校					
学 年	1	2	3	4	5・6	
児童数	5	7	5	8	2	8

中筋小学校は、四万十市の西端に位置し、宿毛市・三原村に隣接している。周りに広がる中筋平野を利用しい草の栽培が盛んであったが、近年は輸入増加により生産農家は見られなくなった。児童数も減少し、平成18年度より複式学級ができたが教頭が担任をすることにより全学年単式を維持してきた。しかし、平成24年度からは児童数がさらに減ったため、複式が1学級（今年度は5・6年が複式学級）でき、単式と複式の学級がある状態が続いている。

学校名	四万十市立中筋中学校		
学 年	1	2	3
児童数	4	4	5

中筋中学校は、四万十市と宿毛市の中心地からちょうど中間に位置し、中筋小学校と隣接している。生徒は保育所から同じ仲間と少人数で生活しており、人間関係にもほとんど変化が見られない。子育て世代が少なく生徒数も年々減少傾向にある。また、地理的に周辺校への登校が容易なため、周辺校への登校が容易なため、若干名が他の中学校への入学を希望することもあり、1学級10名未満の小規模校である。

〈研究協力校〉

学校名	四万十市立大用小学校					
学 年	1・2		3・4		5・6	
児童数	2	5	5 (1)	7	5	4

大用小学校は、四万十市街地から1.6kmに位置する。豊かな自然と温かい地域の人に見守られ、明るく伸び伸びと生活している。平成15年度に常六・片魚小学校と統合し、校区が広がりスクールバスで登校する児童も11名いる。しかし、児童数は減少傾向になり、平成26年度から完全複式校となった。少ない人数ではあるが、地区ごとの行事に参加したり、訪問したりしてつながりを大切にしている。

学校名	四万十市立川登小学校					
学 年	1	2・3		5・6		
児童数	1 (1)	3	1	2	6	

川登小学校は、すぐそばを四万十川が流れ、自然豊かな地域である。四万十川に惹かれ移住した方もいるが、過疎化の影響が大きく年々児童数が減少している。平成24年度からは完全複式校になり、今年度は在籍児童のいない学年もできた。しかし、学校教育には大変協力的な地域柄で、大川筋地区開かれた学校づくり推進委員会や川登保育所、大川筋中学校との連携を持ちながら、地域とのつながりを大切に、児童・生徒を地域全体で育てようとする環境の中で、特色ある学校づくりを進めている。

学校名	四万十市立蕨岡小学校					
学 年	1・2		3・4		5・6	
児童数	2	4	4	6(1)	6	2

蕨岡小学校は、四万十市街地から後川沿いに5分ほど走ると、田や畑が広がる自然豊かな地域である。校区は広く、スクールバスで通学している児童や途中まで家族に送ってもらって集団登校という児童もいる。児童数は年々減少しており、本年度は完全複式となり、複式学級3と特別支援学級1を含む4学級編成となっている。学校に協力的な地域で、保護者だけでなく様々な人が子どもたちを支えてくれている。中でも30年以上続く史跡巡りは、低・中・高と6年間を通して自分たちの地域について学べられるように組織作られている。

学校名	四万十市立利岡小学校					
学 年	1	2	3・4		5	6
児童数	6	6	3	5	7	6

利岡小学校は、市街地までの距離が約5キロ、車で5～6分ほどの所にあり、自然環境にも恵まれた地域にある。校区にある岩田地区の団地（四万十ニュータウン）からは、利岡小学校、後川中学校に来る児童生徒と中村小学校、市立中村中学校、県立中村中学校に通っている児童生徒に分かれる。そのような中で、「学ぶ楽しさ・生きる喜びのある学校」という学校教育目標を掲げ、言語活動を高め、心豊かな児童を育てることを校内研修テーマとして設定して取り組んでいる。また利岡小学校、後川中学校で土曜授業にも取り組み、小中連携で特色ある教育課程への取組を進めている。

2. 研究主題について

(1) 研究主題

各校の実態や研究主題を持ちより、4校共通の主題を設定した。

昨年度の反省を受けて、下記のようにテーマを設定し、各校の独自性を活かしつつも共通した取組の中で研究を進めていくこととした。

課題意識を持ち、主体的に学び、高め合う児童・生徒の育成
 ～言語活動の充実をめざした授業づくり～

(2) 主題設定の理由

6校は、協力的な地域に支えられながら育ってきている。保育園のころから少人数で同じ集団の中で育ち、お互いのことがよくわかっている。全校で行う活動の中では、上級生が下級生に優しく接したり、教えたりする場面も多く見られる。しかし、幼少期からほとんど変わらない環境は、人間関係の固定化を招き、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを表現したりすることの弱さにつながっている。また、切磋琢磨しながらともに成長していこうという気持ちも十分とはいえ、そのことが学力の向上にも影響している。

そこで、問題解決に向けて言語活動を活発にすることによって他者の考えを受け入れたり、自分と比較したりすることが、自分の考えをしっかりと持ち、表現する力になると考えた。そして、そのような取組は授業の楽しさ、面白さにもつながり、児童・生徒の主体性へと進んでいこうと考えた。

このような学習活動時における児童・生徒の関わり合いは、それだけが独立しているものではなく、学級集団や家庭生活とも密接に関係している。そこで、集団の特性や質、家庭との連携を高めていくこ

とも大切になってくる。

以上のような理由から、6校で上記の研究主題を設定し、言語活動の充実をめざした授業を研究していくとともに、児童・生徒の生活も支援しながら取り組むことにした。

3. 研究仮説

- 授業スタンダードを確立し学び方の定着を図ることによって、どの教科でも言語活動を取り入れる場を設定し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるであろう。
- 自力解決や振り返りの場面で、図や表などに表したり、自分の考えをまとめたりする書く活動を繰り返すことによって、相手に伝える力が向上していくであろう。
- 校内で統一した取組を進めることによって、学習を支えたり学習の積み上げとなり、言語活動をより多面的に育てていくことにつながるであろう。

4. 研究内容

- 言語活動を取り入れた授業（授業スタンダード、学習リーダー、集団解決等）
- 言語活動を取り入れたノート（自力解決、振り返り、自主学習等）
- 授業を支えるための校内で統一した取組（環境等）

5. 研究体制

【研究推進校】

- 少人数複式の授業づくり研究
- 指導案検討、公開授業の実施
- 公開授業研究発表会の実施
- 「研究のまとめ」作成

【研究協力校】

- 単式学級でも複式学級でも行うことのできる授業についての研究
- 小規模複式の特性を生かし、言語活動の充実をめざした授業改善
- 公開授業の実施
- 「研究のまとめ」作成

【研究推進員】

- 小規模複式教育に関する研究の推進
- 推進校・協力校での授業に対する研究・助言
- 小中連携の推進
- 先進校視察での実践例の収集、報告
- 研究推進校・研究協力校連絡会、小中研究推進委員会の企画・運営
- 提案授業の実施

【運営委員会】西部教育事務所主催

- 構成員・・・各校の学校長、西部教育事務所指導主事、教育委員会主事、研究推進員

○指定事業内容の周知、情報交換等

【研究推進・研究協力校連絡会】研究推進校主催

○構成員・・・推進校学校長、研究推進員、各校研究主任、西部教育事務所指導主事、教育委員会主
監、各校管理職（可能な時）

○共通の研究テーマの設定

○具体的取組の検証と改善、情報交換、先進校視察報告等

【小中研究推進委員会】

○構成員・・・中筋小中の管理職、研究推進員

○小中連携の研究内容の提案、小中合同二部会での話し合いの議題、授業交流計画

【小中合同研究会・二部会】

○構成員・・・中筋小中教員

○学力向上部会と生活支援部会での小中連携

【体制図】

